

第三十八回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

開催日時:平成 25 年 8 月 7 日 16:00～

開催場所:東京都港区北青山 3-1-2 USEN 本社



■出席者

湯川 れい子 委員長

有馬 祐行 副委員長

山本 武司 副委員長

富澤 一誠 委員

■欠席者

大林 宣彦 委員

■局側出席者

中村 代表取締役社長 CEO

田村 副社長執行役員

鈴木 顧問

益弘 顧問

沖 放送企画本部長兼番組制作部長

村田 番組制作部 制作 2 課長

李 番組制作ディレクター

【番組審議会事務局:森角】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1) 会社動向について

49 期第 3 四半期経営報告を行い、49 期は引き続き「成長の足掛かりを掴みとる」という全社方針を掲げ、49 期予算数値の確実な達成と財務体質の強化を目指すことを報告。

(2) 「田端義夫さん追悼番組」の放送について

2013年4月25日に逝去された田端義夫さんの追悼番組を5月1～31日まで放送した。

(3)「東京スカイツリータウン®MUSIC GUIDE」への機能追加について

2013年5月15日、東京スカイツリータウン®に提供しているWEBサイト「東京スカイツリータウン®MUSIC GUIDE」において、放送中の楽曲を確認できる『NOW PLAYING』機能を追加した。

(4)「職場と音に関する調査」アンケートの実施について

オフィス向けBGMサービス「Sound Design for OFFICE」では2013年6月、「職場と音に関する調査」アンケートを実施。アンケート結果は翌月3回に分けてプレスリリースを行った。

(5)「2013 上半期 USEN HIT ランキング表彰式」について

2013年7月10日、本社1F USEN MUSIC GARDENにおいて「2013 上半期 USEN HIT ランキング表彰式」を実施。司会に赤坂泰彦氏を迎え、J-POP 総合1位のSally「赤い靴」、洋楽総合1位のオースティン・マホーン「セイ・ユア・ジャスト・ア・フレンド」を表彰した。

2. 審議課題

J-27「トルコ・ポップス」(2013年10月1日放送開始)について

3. 番組審議

【放送局】

2013年10月に放送開始する新番組「J-27 トルコ・ポップス」について審議していただきたい。この番組は、日本国内にもトルコ関連の店舗が増え、社内外よりトルコのポピュラー音楽についての問合せや要望が増えたことを受けて開始することにした。内容は、今や世界的にも人気の高いトルコ・ポップスを放送するもので、その特徴は「民族楽器が多用される独特のサウンド」、「トルコ語での歌唱」。タルカン、セゼン・アクス、セルタブ・エレネルなど現地の有名アーティストの最新音源も入手し、現地の音楽市場を反映する。トルコ料理店やトルコ雑貨店等をターゲット(顧客層)としている。

【審議委員】

USEN には既に実に様々な国の音楽番組があるが、例えば「インドの音楽番組はインド料理店で使っていた方がいい」といった実績があるから、今回、「トルコ・ポップス」を作るのか。

【放送局】

やはり各国の料理店では、自国の音楽を要望され、USEN をお使いいただいている店舗も多くある。音源を集めるのは大変な作業だが、充実した番組を目指したい。

【審議委員】

「トルコ・ポップス」はこれまで聴いたことがなかったが、ポップで良い印象だった。落ち着くという感じではないが、程良い高揚感があり、ポジティブな気分になれる感じがした。

【審議委員】

今回、改めて USEN のワールド・ミュージックのラインナップを見て、「USEN で世界中の音楽が聴けるんだ」とその充実ぶりに驚いた。これは世界で類を見ない放送局なのではないのかと感じた。また、自身の家の近所にもケバブの店が 3 軒ほどあり、盛り上がっている。タイムリーで、狙いは良いのではないかと感じる。

【審議委員】

USEN のワールド・ミュージックのラインナップの充実ぶりは驚くばかりだが、個人的にはスコットランドやアイルランドの音楽も良いのではないかと思う。昔は教科書でスコットランドやアイルランドのメロディーに日本語で歌詞をつけた音楽を習い歌っていた。今の小学生にそういう教育はないかも知れないが、古い世代にとっては親しみ深いものだ。インストルメンタルでは「バグパイプ」等も良いかも知れない。愛好家も多いし音源も豊富にあると思う。

【放送局】

確かに、「バグパイプ」は日本人向けの音色だし、そのメロディーも好まれる。過去には「フォルクローレ」も番組としてあったが、「コンドルは飛んでいく」のような哀愁漂う音楽も日本人好みだ。「バグパイプ」と「フォルクローレ」あたりは番組化できないか、課題として認識している。

【審議委員】

これだけ番組が充実しているのは素晴らしいが、お客様が「トルコの音楽が聴きたい」と思った時、どこ(のチャンネル)で聴けるのか、すぐにわかるように番組表を工夫する必要もあるだろう。チャンネル・アドレス順やジャンル別も良いが、世界地図で表す等、もっと感覚的にわかりやすく訴求すればどうだろう。

【放送局】

お客様に届ける会報誌「With Music」では、数年に 1 度、「音楽で世界一周」といった企画で世界地図に表して掲載したりもするが、定常的には作っていない。そのご意見は参考にしたいと思う。

【審議委員】

日本にトルコ料理店が増えたとはいえ、その店舗のお客様としてはトルコ人ばかりが来るわけではなく、日本人も集めたいだろう。営業時間中、日頃聴き慣れない、言語もわからない(トルコの)音楽を流されて、そこで食事をするというのはいかなものだろう。両立するのだろうか。

【審議委員】

トルコ料理店を訪れる日本人のお客様は、「トルコの雰囲気を楽しみたい」と思うのではないだろうか。そのように考えた場合、聴き慣れなくても、言語が理解できなくても、エキゾチックなトルコの音楽が流れているのは良いと思う。サウンドが楽しければ良いのではないだろうか。USEN はこれだけ多くの番組を取り揃えており、いわば「(音の)大百貨店」だと思う。番組の中にはお客様が少ないものもあるだろうが、品揃えの充実は大事なことだし、サプライサイドの発想で良いので、これからもさらに充実させていって欲しい。

【審議委員】

やはり「日本で働いているトルコの方」からすると、今旬のトルコ(の音楽)を運んでくれるということは嬉しいと思う。実際、

インドの方から、そのような話を聞いたこともある。

【審議委員】

楽曲数が充実してきたら、その中の楽曲をいくつかのパターンに分類し、店舗を想定しているなら、「人が多い時間、少ない時間、ランチタイム、ディナータイム、ディナータイム後のゆっくりワインを飲む時間」といったように、そこにいらっしゃる人のことを考え、時間帯に合わせたタイムテーブル放送にしてはどうか。

【審議委員】

「トルコ・ポップス」はヴォーカル入りの音楽ばかりだが、インストゥルメンタルも混ぜても良いかと思う。

【審議委員】

今、アイスランドのポップスも人気があるので、1チャンネルあっても良いのではないかな。

【審議委員】

番組内容としては、ヒット曲がバラエティ豊かに流れるというのが良いだろう。日本で言えば、AKB48 もかかれば北島三郎さんもかかるといったような内容だと喜ばれると思う。

【審議委員】

ベリーダンスで使われるアラビアン・ミュージックもとてもウケているが、そうした音楽市場から考えても、今、トルコの音楽番組を作るのは最高だと思う。

【審議委員】

USEN のワールド・ミュージックのラインナップを地図で見ると、オーストラリアの番組もない。それも作っても良いのではないかな。

【放送局】

日本国内のインド料理の店舗は実はネパールの方が経営していることが多い。そうした情報から、以前「ネパール・ポップス」の番組も立ち上げ好評いただいているが、こうした情報を集めることもとても大切だ。今後も、様々なところから情報を集め、世の中に必要とされる番組を作っていきたい。

【審議委員】

USEN のワールド・ミュージックの紹介冊子を作り、業務店に配布しても良いのではないかな。

【放送局】

本日いただいたご意見を反映してより良い番組を作っていくと同時に、このような番組の存在をお客様にどのようにお伝えするかといったプロモーションにも力を入れて行きたいと思う。